



スロベニア マンスリー

発行：在スロベニア日本国大使館 発行日：2022年3月25日

～2月の主なポイント～

内 政：総選挙日を4月24日とする選挙令状にパホル大統領が署名

外 政：ロシアによるウクライナ侵攻に対するスロベニアの反応

文 化：リュブリヤナ、2022年の欧州ベストデスティネーションに認定

新型コロナウイルス：21日からほとんどの国内規制廃止

政治

【内政】

●ゴロブ氏とKULの会談【1日】

野党中央道左派4党連合(KUL)の党首は「自由運動」ゴロブ党首と初の公式会談を行い、政権交代と国内情勢の変化という同じ目標を目指すことに合意した。ゴロブ氏は、与党政治にもKULにも代わる別の選択肢を有権者が期待していると述べ、自身の「自由運動」に代表される選択肢もあると述べた。

●STAとUKOM、2022年の公共サービス契約に調印【1日】

カドンツSTA社長と政府通信局(UKOM)のウルバニヤ局長は、2022年のSTAの公共サービスへの資金提供に関する契約を締結した。これにより、両者は「責任を持って働くことが求められるこの重要な各種選挙が続く年に、STAの業務を中断することなく継続するための基礎を築いた」とカドンツ社長は述べた。UKOMによると、2022年の国家補助金の年間計画額は前2年と変わらず、202万8,000ユーロ。

●政党間協力【2日】

「具体的に」、スロベニア人民党(非議会政党)、緑の党(Greens)、新人民党及び新社会民主党の5政党は総選挙のための協力協定に署名した。「スロベ

ニアを繋げる」(Connecting Slovenia)と名付けられたこの政党間協力の主目標は、経済、市民及び環境利益の促進である。

●政治家への殺害予告の発信者を特定したとの報道【3日】

ヤンシャ首相、トニン国防相、ホイス内務相を含む政府高官数名と、連立政権およびその他の親政府の議員数名が、殺害予告の手紙を郵便で受け取り、被害者の一部は間接的に左派野党やNGOを非難していた事件で、警察がこの事件の主犯を特定したと報じられた。犯人は政府寄りの国民党(SNS)の幹部であり、その党首のイェレンチッチ議員も標的であったとした。野党は、スキャンダル全体が、明らかに政府関係者によって反対派の信用を落とすためにでっち上げられたものだと強調した。

●EIB、スロベニアのグリーン、デジタルプロジェクトへの投資を強化【3日】

欧州投資銀行(EIB)パブロヴァ副総裁とシルツェル財務大臣は両者が協力を強化する計画であることを発表した。EIBはスロベニアで多くのプロジェクトに参加し、道路や鉄道の近代化に参加し、中小企業を支援しているが、グリーン・トランジションやデジタル・トランジションを促進するプロジェクトを増やしていく

きたいと述べ、これはもはや選択肢ではなく、必然であると指摘した。

●SPIRIT長官の辞任【5日、10日】

4日、コスタニエヴェツ投資促進庁(SPIRIT)長官はその職を辞した。同氏はスロベニア郵便公社の監査役会からも辞任したところだった。

10日、政府はSPIRITの新長官代行として、スパ企業テルマナ・ラシュコの役員を務めるツップル氏を指名した(2月12日に発効)。

●電気通信法案【4日】

議会は、EU指令を国内法に反映するために政府によって提案された電気通信法案についての投票を行い、反対45、賛成40で否決した。この法案には、中国のファーウェイ社を念頭に、リスクの高い事業者を市場から締め出すことができる条項が含まれていた。

●パホル大統領の選挙令状への署名【9日】

パホル大統領は、2022年4月24日を総選挙日とする選挙令状に署名した。前回の総選挙は2018年6月3日に実施されており、今次選挙日は憲法上可能な中で最も早い日程となる。

●ヴェスナ緑の党(Vesna)が正式に設立され、2人の共同議長が就任【9日】

新緑の党、ヴェスナの設立総会が開催され、環境保護活動家のウルシャ・ズゴイズニクとウロシュ・マツエルが共同党首に選出された。ズゴイズニク氏は、目標は、国会に進出し、環境、経済、農業、若者政策、民主主義の分野における政策を要求することであると述べた。大会の後で、党は「ヴェスナは、行動優先な人々と、完成された政策集を伴い政治の舞台に参入する」と述べた。グリーン経済への投資、持続可能な農業モデルや有機的な食品生産、モビリティの向上、再生可能エネルギーによるエネルギー調達に重点を置く。

●スロベニア外務省の新大使人事【14日、17日】

14日、7人の大使候補者が議会の外交政策委員会に非公開でプレゼンテーションを行った際、野党のマリヤン・シャレツ・リスト(LMS)は、候補者が与党の民主党(SDS)や新スロベニア(NSi)と関係があると主張した。LMSは、任命の署名をするパホル大統領に対し、選挙直前の政治的任命を防ぐよう求めた。大使の選考手続きは、ホスト国が候補者を承認するまで非公開で行われる。

17日、パホル大統領は、LMSによる総選挙前に新大使任命に署名しないよう求める呼びかけを拒否した。任命の延期は通常のローテーションからして不当であり、国際社会における外交政策上の利益を損

ねるものであると指摘し、この手続きは、選挙日程に影響されないのが好ましいと述べた。

●エネルギー危機支援パッケージの承認【22日】

国民議会は、エネルギー価格高騰の影響緩和のための政府パッケージを圧倒的多数で承認した。世帯及び市民への支援に一番の重点が置かれており、全ての世帯消費者の権利を平等にするため、71万人のスロベニア人に対して1回限りの支払いが行われ、寄付及びネットワーク料金支払いの3か月免除が導入される。

●ヤンシャ首相、侮辱的ツイートで執行猶予付き判決を受ける【25日】

ツェリエ地方裁判所は、ヤンシャ首相が2016年のツイートで2人のスロベニア国営テレビのジャーナリストを「引退した売春婦」と呼び中傷したとして有罪判決を下した。同判決はまだ確定していないが、ヤンシャ首相は3ヶ月の執行猶予付き判決を受けた。また、裁判にかかった費用の支払いも命じられた。

●デジタルリテラシー促進法案の可決【28日】

国民議会は、経済と社会全体のデジタル開発を強化することを目的としたデジタルインクルージョンを奨励する法案を可決した。法案の目玉は、学生(小学校高学年から大学生まで)と55歳以上の市民がデジタルデバイスを購入してデジタルリテラシーコースに参加するためのデジタルバウチャーである。

●ウクライナからの難民到着【28日】

トニン国防相は、ウクライナから約10名の難民が既にスロベニアに到着したと述べた。エソテック社は、ウクライナのZhytomyr市で廃水処理プラントを建設していた労働者の2家族がヴェレニエのホテルに滞在を始めたと述べた。1党を除くすべての議会政党は、スロベニアがウクライナ難民を受け入れるとの発表を歓迎したが、ホイス内務大臣が示唆したように、18万～20万人を受け入れる能力と必要があるかについては懐疑的だった。

【外政等】

●英国防相の来訪【2日】

トニン国防相はスロベニア来訪中のウォレス英国防相と会談し、主にウクライナ情勢及び西バルカンの状況について協議した。ボスニアの緊張状態については、EUと米国の解決努力への支持が必要であるとのことで一致した。

●スロベニア・ラトビア外相会談【3日】

ロガル外相とリンケービッチ・ラトビア外相はリュブリヤナで会談し、ウクライナ危機の外交的解決とこの

問題におけるEUの結束を呼びかけた。両大臣はまた、貿易を促進する方法についても議論し、リガでのスロベニア大使館の開設が役立つであろうと述べた。

●ロガル外相の中東訪問【8日、9日、10日】

8日、ロガル外相は、アラブ首長国連邦を訪問し、アブダッラー外相と会談を行った。両大臣は、2018年にスロベニアがアブダビに大使館を開設して以来深まっている優れた二国間関係を確認し、更なる協力の機会について議論した。また、ロガル外相は、2024年～2025年に国連安理会非常任理事国のスロベニアの立候補を紹介した。

9日、ロガル外相は、ドーハでカタールのムハンマド外相と会談し、経済協力やエネルギーを含む地域・世界の問題について議論し、スロベニアの国連安理会非常任理事国への立候補についても触れた。これに先立ち、カミーム・カタール国首長に迎えられ、会談では両国の友好関係の深化に焦点を当てたと、外務省は述べた。

10日、サウジアラビア訪問中のロガル外相はファイサル外務大臣及び閣僚数名と会談し、湾岸諸国訪問を終えた。両外相は経済協力、スロベニアの安理会非常任理事国立候補等について協議し、二国間関係強化に対する相互の関心を確認するとともに、いくつかの二国間協定の締結が関係強化に貢献するだろうと述べた。

●パホル大統領のポルトガル訪問【14日】

パホル大統領とレベロ・デ・ソウザ・ポルトガル大統領は、2日間にわたるパホル大統領のポルトガル公式訪問の冒頭で会談し、ウクライナ危機の平和的・外交的解決を求めるとともに、西バルカン地域へのEU拡大を早めるよう求めた。今回の訪問は、両国の外交関係樹立30周年を記念したもの。また、コスタ首相、ロドリゲス議長とも会談した。

●UAEとの覚書【15日】

ポドゴルシェク農相はUAEのムハイリー環境・気候変動相と会談を行い、持続可能な開発及び食料システムに関する覚書に署名した。ポドゴルシェク大臣は、両国は持続可能な農村開発、持続可能な食料生産、食料安全、獣医及び植物検疫並びに農産品の貿易促進について協力を推進していくと述べた。

●リュブリヤナ市長、セルビアで国家勲章を受賞【16日】

ヤンコヴィッチ・リュブリヤナ市長は、セルビアのヴチチ大統領から国家勲章を授与された。ヤンコヴィッチ市長は、リュブリヤナで記者会見し、セルビアの首都ベオグラードの次期市長になるのではないかという一部のセルビアメディアの憶測を否定した。「私はベ

オグラードで、自分が市長候補ではないことを明らかにした。リュブリヤナで再び出馬するかどうかはまだわからない」と述べた。

●スロベニア、ウクライナに関するEUの取り組みを全面的に支持【17日】

ヤンシャ首相は、EU首脳がウクライナ情勢について協議した後、「緊張緩和に向けたEUの努力に全面的に支持する」と表明した。同首相は、この問題に対するEUの結束を称賛し、これによりロシアのプーチン大統領がゲームをしづらくなると述べた。

●ハープトリアン新駐スロベニア米国大使、信任状を提示【17日】

17日、ハープトリアン新駐スロベニア米国大使がパホル大統領に信任状を提出した。「私の目標は、平和と繁栄、そしてすべての人々にとってより健全な地域という共通のビジョンを支えるために、共に働き、パートナーシップを強化する道を開くために日々働く橋渡しとなること」と述べた。

●パホル大統領、ロガル外相のミュンヘン安全保障会議出席【20日】

パホル大統領は、ミュンヘン安全保障会議のパネル討論に出席し、西バルカン地域が抱える問題に対する唯一の答えはEUであると述べ、EU拡大の推進を促した。同大統領は、ボスニア・ヘルツェゴビナ情勢、停滞している(セルビア・コソボ間の)ベオグラード・ブリュッティナ対話、ブルガリアによる北マケドニアのEU加盟交渉の阻止を、現在の3大問題と位置づけた。一方、ロガル外相は、過去に起因するこの地域の問題を解決することが重要であると述べた。

パホル大統領はまた、ミュンヘン滞在中、ウクライナ危機を中心に、フィンランドやモンテネグロの大統領とバイ会談を行った。

●スロベニア・ハンガリー首脳会談【21日】

ヤンシャ首相とオルバーン・ハンガリー首相は、ハンガリー国境付近のレンダヴァでそれぞれの国の少数民族が住む国境地帯の開発協力に関する協定に署名し、少数民族は「二つの友好国間の協力のための架け橋」であり、両国の経済関係は二倍の利益をもたらすことを強調した。ヤンシャ首相は、4月に両国で選挙が行われることに言及し、両国の協力関係は次期選挙の結果にかかわらず継続していくものだと述べた。

●ウクライナへの物資【22日】

22日、スロベニア政府は、ウクライナの支援要請に対して、EUの市民保護メカニズムに従って、寝袋、

ゴムブーツ、ディーゼル発電機、手袋、フェイスマスク合計16万3千ユーロ相当をウクライナに送付した。

●ロガル外相のインド太平洋関連外相フォーラムへの出席【22日】

ロガル外相は、EU議長国であるフランスが主催する第1回インド太平洋閣僚会合に出席した。同会合の主なテーマは、安全保障の状況、地球規模課題（気候、環境、保健、海洋）、連結性、デジタルに関する問題だった。ロガル外相は、連結性とデジタルに関する問題に関する議論の中で、グローバルな視点と状況を考慮しつつ、欧州とインド太平洋間の質の高い持続可能なコネクションの重要性を強調した。ロガル外相は、会合のサイドラインで、インドネシアおよびオーストラリアの外相と二国間会談を行った。

●ロガル外相の訪英【23日】

23日、英国訪問中のロガル外相はト拉斯英外相と会談し、二国間関係強化のための宣言に署名した。両外相は、両国は基本的価値と多くの事項・政策について類似の関心を共有するパートナーであり同盟国であると確認した。ロガル外相は第26回国連気候変動会議のシャーマ議長とも面会した。

●リュブリヤナとマリボルで反戦抗議デモを実施【25日】

リュブリヤナ及びマリボルで、ロシアのウクライナ侵略に抗議するデモが行われた。

●ロガル外相の訪独【28日】

ドイツ訪問中のロガル外相はベアボック独外相と会談した。ロシアのウクライナ侵攻が会談の最大のテーマとなり、両外相はウクライナにおいて欧洲の価値が守られるということに同意した。ベアボック外相は、ロシアのウクライナにおける行動は欧洲だけでなく全世界にとっての脅威であるとし、国連総会が近日中にロシアの侵攻を非難しロシアを国際的に孤立させることを期待していると述べた。

●スロベニア・モルドバ首脳電話会談【28日】

パホル大統領はサンドウ・モルドバ大統領と電話会談し、スロベニアはモルドバのウクライナ難民受け入れを全面的に支援すると述べ、その方策について検討すると述べた。また、モルドバのEU加盟希望を支持すると述べた。両首脳はウクライナ情勢における意見を交換し、ロシアの侵攻を非難した。

●スロベニア・ポーランド首脳電話会談【28日】

パホル大統領はドウダ・ポーランド大統領と電話会談し、ウクライナの現状について意見交換を行った。両首脳は、ロシア指導者による明らかな国際法違反

について大いなる遺憾を表明し、ロシアの攻撃の停止を求めた。また、両大統領はロシアのウクライナ侵攻に対して、EUの団結した強力な対応の重要性を強調した。

【ウクライナ関係】

●ヤンシャ首相、ウクライナの領土保全への支持を表明【12日】

12日、ヤンシャ首相は、ウクライナのシュミハリ首相と電話で会談し、「ウクライナの領土保全と、同盟を選択するすべての国の権利を支持することを表明した」と述べた。「ウクライナを支援することで、EUとNATOは友好国を守るだけでなく、両同盟が築かれている基盤そのものを守っている」と付け加えた。

●国民にウクライナからの出国を勧告【12日、28日】

12日、スロベニア外務省は、ウクライナに滞在しているスロベニア国民に対し、民間航空便または自家用車を利用し、安全な方法で躊躇なく出国するよう、また、治安悪化に応じて、ウクライナへの渡航を控えるよう勧告した。スロベニアは、ロシアのウクライナ侵攻の可能性を警戒し、国民に早期の国外退去を促した数多くの国の仲間入りを果たした。

28日、スロベニア外務省は、ロシア及びベラルーシに滞在しているスロベニア国民に、フライトの限定とリスクの高まりのため、現地から退避するよう勧告した。

●ヤンシャ首相、欧州理事会議長らとウクライナについて協議【14日】

14日、ヤンシャ首相は、ミシェル欧州理事会議長をはじめとする複数のEU関係者とビデオコールで会談し、緊迫する東欧の安全保障状況、ウクライナへの支援、ロシアの侵攻の可能性がもたらす結果について協議した。

●ロガル外相のEU外務大臣会合出席【21日】

ロガル外相は、EU外相会合の後、ウクライナ危機に関して前向きな進展はなかったものの、いくつかの協議が行われたと述べた。ロガル外相は、計画されている制裁措置がロシア経済に大きな打撃を与えると指摘し、最終的には外交的理性(diplomatic reason)が勝つと楽観的な見方を崩していない。EUは何よりもまず、現れた安全保障上の脅威を解決するための唯一の正しい方法として、対話を重視していると述べ、欧米は常にウクライナの領土と主権を支持すると付け加えた。

●政府はロシアのドネツク州及びルハンスク州の独立承認を非難【22日】

政府関係者は、ロシアがウクライナ東部の分離派支配地域であるドネツク州とルハンスク州を独立国として承認したことを強く非難した。

ヤンシャ首相は、EUがウクライナに正式加盟の見通しを提供するよう要請した。スロベニアも、同国のEU加盟を支援する用意があるとしている。また、同首相はツイッターで、「ウクライナの2つの分離派支配地域を承認することは、国際法、ブダペスト協定、ミンスク協定に対する明白な違反である。スロベニアはこの違法な動きを非難する。EUはウクライナに完全な(EU)加盟の見通しを提供しなければならない」と述べた。

●スロベニア外務省のロシア大使招致【23日】

スロベニア外務省は、ウクライナ東部のドネツク州とルハンスク州の独立をロシアが承認したことについて、エイバゾフ駐スロベニア・ロシア大使を招致した。バティッチ副政治局長は、同大使に、ウクライナ国境付近でのロシアの活動、特に2つの地域の独立の一方的な承認に対するスロベニア政府の断固たる反対を伝えた。同省は、これは国際法と、ミンスク合意を含む多くの合意でロシアが請け負った義務の重大な違反であると述べた。

●スロベニア、ロシアのウクライナ攻撃を強く非難【24日】

スロベニアは、ロシアによるウクライナへの攻撃を最も強い言葉で非難し、ヤンシャ首相は、同国に対する前例のない軍事侵略であるとし、「ロシアは直ちに軍を撤退させ、ウクライナの領土保全を完全に尊重しなければならない」と述べた。ヤンシャ首相は、ウクライナのシュミハリ首相と電話で会談した後、記者団に対し、EUはウクライナに対し、できるだけ早くEUへの完全加盟の見通しを確保すべきであると述べた。パホル大統領は、今回の攻撃は国際法および紛争の平和的解決のための国連の原則に対する重大な違反であると述べた。

●ヤンシャ首相のEU緊急首脳会談出席【24日】

ブリュッセルで開催されたEU緊急首脳会議に出席したヤンシャ首相は、ウクライナに侵攻したロシアに対して可能な限り厳しい制裁を行うよう求めた。ヤンシャ首相は、ロシア当局が「この侵略行為に払う代償は実に大きい」と感じることが重要だと述べた。EU首脳は、金融、エネルギー、交通にまたがる広範な制裁措置を採択した直後であった。ヤンシャ首相はまた、ウクライナに人道的、経済的、軍事的支援を提供するよう求めた。

●ヤンシャ、モラヴィエツキ両首相、ウクライナのEU加盟を呼びかけ【24日】

24日、ヤンシャ首相とモラヴィエツキ・ポーランド首相は、欧州理事会議長および他のEU首脳に宛てた書簡で、2030年までにウクライナのEU加盟を果たすよう要請した。ウクライナ危機に関するEU首脳会議に先立ち、両氏は迅速かつ勇敢な決断を促した。EUは、ロシアの脅威に直面して強く結束し、直ちに制裁措置を講じるとともに、「さらに前進」しなければならないと書簡には書かれている。ヤンシャ氏の書簡は、EUの複数の首相によって承認された。

●スロバキアに部隊を配備するための協議を開始【24日】

24日、トニン国防相は、スロバキアと国境を接するウクライナへのロシアの本格的な侵攻を受けて、同国での軍事的プレゼンスを強化するため、最大50人の部隊を同国に配備する方向で協議中であると述べた。

●ロシアの侵攻でクルカの株価が10%以上急落【24日】

ロシアとウクライナでかなりの取引をしている製薬会社クルカの銘柄が、ロシアのウクライナ侵攻を受けて、24日のリュブリヤナ証券取引所で10%以上下落した。

●スロベニア、ロシア航空機の領空通過を禁止【26日】

政府は、ロシアのウクライナ攻撃を受けて欧州の多くの国がロシア航空機に対し領空通過を禁止したことを受け、スロベニア領空へのロシア航空機の入国禁止を決定した。この決定は26日から施行され、「その理由がなくなるまで」継続されると政府は発表している。この禁止措置は、ロシアで登録された航空機と、ロシアに拠点を置き、ロシアの管轄当局から認可を受けたオペレーターを対象としている。

●スロベニア、最大20万人のウクライナ難民受け入れ【27日】

ホイス内相は、非公式EU内相会合において、スロベニアは、ウクライナからの難民を18万人～20万人受け入れるキャパシティがあると述べた。ホイス内相は、この数字は1990年代初頭のユーゴスラビア紛争で、スロベニアがユーゴスラビア共和国からの難民を30万人以上受け入れた経験に基づくものであると指摘した。ホイス内相は、スロベニアが近隣諸国からの難民であることを考慮し、「我々の能力を最大限発揮して彼らの面倒を見る」と述べた。

●スロベニア、ロシア名誉領事の信任状を取り消し【27日】

ロガル外相は、スロベニアにいるすべてのロシア名誉領事の信任状を取り消す政令に署名し、「ロシアは

もはやスロベニアに名誉領事を有していない」とツイッターで発表した。

●ロシア、スロベニアとバルト三国の領空を閉鎖【27日】

27日、ロシアはスロベニア、ラトビア、リトアニア、エストニアの航空機に対して領空を閉鎖した。ロシアのウクライナ侵攻を理由に上記の国々がロシア機の領空通過を禁止したため、報復措置として同措置がとられ、「ラトビア、リトアニア、スロベニア、エストニアの航空当局による非友好的な動きのため、上記の国の航空会社やそこに登録している航空会社に制限が導入される」とロシアの連邦航空輸送庁は26日に発表している。

●GZS、ロシアをSWIFTから排除することを受け入れる【27日】

商工会議所(GZS)は、スロベニアはロシアの国際決済システムSWIFTからの排除を支持すべきではないとの政府への要請を撤回し、GZSのカンタルッティ事務局長は、EU加盟国がロシアの銀行をSWIFTから排除することに合意する前の26日に、「ウクライナへの侵略のためにEUが採用するすべての制裁を受け入れる」と文書で発表した。

●エネルギー関連のEU緊急閣僚会合【28日】

ヴルトヴェツ・インフラ相は、EU緊急閣僚会合においてロシアのウクライナ侵攻がエネルギー市場に与える影響について話し合った後、記者団に対して、EUのガス供給を多様化し、ウクライナの電力網をヨーロッパの電力網と同期させる必要性を強調した。EUはロシアのガスに大きく依存しているため、石油とガスの供給源の多様化が緊急に必要であると述べた。

●ウクライナへの軍事物資支援【28日】

トニン国防相は、スロベニアはウクライナに銃、弾薬及びヘルメットを送付したと述べた。個数は明らかにしなかったものの、何機かの飛行機で送付したとした。銃は、スロベニア軍がFN F2000ライフルを使用し始める前に使っていたカラシニコフ銃である。

経済

【経済一般、指標・統計】

●貿易の増加【4日】

統計局の発表によれば、スロベニアの2021年の輸出額は394億ユーロで前年比19.8%増、輸入額は420億ユーロで前年比30.8%増となった。貿易収支はマイナス26億ユーロで、最近10年で最大の赤字となった。

●雇用数【10日】

統計局の発表によれば、スロベニアは2021年第4四半期に過去最高の雇用数を記録した。求人市場は記録的な22,900人の欠員を記録し、また被雇用者数も過去最高の792,100人に達している。

●平均賃金の増加【15日】

統計局の発表によれば、2021年のスロベニアの名目上平均賃金は前年比6.1%増で1,970ユーロとなった。最近5年間で最大の伸びとなっている。賃金の伸びは公的部門でも民間でもほぼ同等となっている。ただし、高いインフレ率のため、実質賃金の伸びは4.1%にとどまっている。

●GDPの増加【28日】

統計局の暫定データによれば、スロベニア経済は、景気刺激策に支えられた国内支出に牽引され、2020年の4.2%の縮小の後、2021年には実質GDPが8.1%増、名目上GDPは10.9%増となった。スロベニア中銀及び政府マクロ経済シンクタンクは、今後のトレンドはロシアの侵攻に影響されるだろうとしている。

●インフレ【28日】

2月の前年比インフレ率は6.9%となり、2008年7月以来最高となった。前月比では1.4%となっている。エネルギー価格の高騰が主な理由となっており、物価が8.5%増、サービス価格が3.7%増となっている。

【企業、産業の動向】

●レク社の設備拡張に660万ユーロの補助金【3日】

政府は、リュブリヤナ拠点での生産拡大投資を計画している製薬会社レク社に対し、660万ユーロ相当の補助金を承認した。プロジェクト全体は8,300万ユーロに相当し、2024年までに120人以上の雇用を創出する。経済開発・技術省は、レク社(スロベニア第2位の製薬会社で、スイスノバルティス傘下の主要輸出企業)が高付加価値の新規雇用をもたらすだけでなく、スロベニアに存在しないバイアルヒシリ

ジ(医療機器)製造のための最先端技術を立ち上げるものであるとこの決定を説明した。

●ルノーの自動車修理工場に競争規則違反が発覚【9日】

競争監視委員会は、ルノー日産スロベニアと他4社が10年以上にわたりカルテル協定を通じてルノー車の修理・メンテナンスで談合を行っていたことを明らかにした。このうち1社は関与を認め、より軽い判決と引き換えにさらなる証拠を提出した。

●ヨジエ・ヘバル、エレクトロマリボルの会長に就任【21日】

電力販売会社エレクトロマリボルの監査委員会は、緊急会合で現会長代理のヨジエ・ヘバル氏を正式な会長に任命した。ヘバル氏には、グリーンでエネルギー効率の高い未来へと同社を導く機会が与えられると、監査委員会は述べた。ヘバル新会長は、9年間同社を率いてきたボリス・ソヴィッチ氏の解任に伴い、11月に会長代理に就任した。

●レヴォズ社の生産カット【22日】

仏ルノー社傘下のスロベニアの自動車生産レヴォズ社は、4月に更なる生産ラインカットを予定していたが、世界のサプライチェーンの問題が継続しているため、生産縮小を1か月早めて2月28日からとした。

●GENエネルギー社に暫定トップが就任【24日】

NEK(クルスク原子力発電所)のスロベニア側半分を管理しているGENエネルギーは、長年務めたマルティン・ノヴシャク事務局長が24日付けで解任され、財務責任者のゴルダナ・ラダノヴィッチが暫定的な責任者を務めると発表した。ノヴシャク氏の解任理由は明らかにされていない。

●SSHの監査委員会、サヴァの株式を購入する計画を承認【1日、25日】

25日、スロベニア・ソブリン・ホールディング(SSH)の監査当局は、プライベート・ファンドのヨークから観光ホールディングのサヴァの株式43.2%を購入する先買権行使する決定を承認した。この株式は、KADファンドとともに取得される予定であり、この取引が完了すると、両社は合わせてサヴァの89.96%を保有することになる。

1日にハンガリーの資産運用会社ディオファ・アセット・マネジメントが出資するプレステージ社がヨーク社からの株式購入の契約を確定させていたが、ハンガリーの投資家に株式を売却することに反対する世論の反発を受け、政府は21日にSSHによる購入を承認した(SSHには30日以内の先取特権の行使権があった)。

新型コロナウイルス関連情報

●2月28日時点におけるスロベニア国内の新型コロナウイルスの感染状況【28日】

2月28日時点において、スロベニア国内で新型コロナウイルスへの感染が確認されている人数は累計895,425名で、死者は計6,307名となっている。

●ヤンシャ首相の感染【9日】

ヤンシャ首相は、コロナウイルスの自己検査で陽性反応を示した。同首相はツイッターに陽性反応の写真を投稿し、軽度ではあるが新型コロナウイルスの典型的な症状がすべて出たと述べた。ヤンシャ首相は、8日に息子二人が自己検査で陽性になるまでの2年間、家族は新型コロナウイルスを避けることに成功していたと述べた。

●スロベニアへの入国規制が廃止【18日】

政府は、濃厚接触者の検疫を免除し、コントクト・トレースを終了することを決定した。また、スロベニアに入国する旅客の新型コロナウイルスパスの提示義務も廃止した。

●多くのコロナ規制措置が解除【21日】

21日から、マスク着用と屋内での手指消毒を除き、事実上すべての新型コロナウイルス感染症に関する規制が撤廃された。PCT規則は、病院、介護施設、刑務所においてのみ必要となる。また、店舗、接客業、その他のサービスにおける集会の上限や人数、営業時間の制限はなくなった。

社会・文化・スポーツ

【文化・生活等】

●リュブリヤナは欧州で3番目に緑豊かな都市【1日】

欧州環境機関が発表した報告書によると、リュブリヤナは、都市部の樹木被覆率と緑地インフラ全体では欧州で最も評価の高い首都の一つであるが、都市の豊富な緑地への公共アクセスという点では、平均以下であることが明らかになった。リュブリヤナは、都市部の樹木被覆率と緑地インフラ全体の割合で、それぞれ67%と50%を占め、EEA加盟国の首都の中で第3位となった。

●リブリヤナ、2022年の欧州ベストデスティネーションに認定【11日】

リュブリヤナは、400以上の旅行先の中から、2022年のヨーロッパベストデスティネーションに認定された。自然を愛する人、シティブレイク、グルメ、カルチャーハンター、インスタグラマー、恋人、家族連れに推薦されている。リュブリヤナへの投票の92%は他国からのもので、アメリカ、イタリア、ドイツ、オーストリア、クロアチアが中心だった。182カ国から528,000人以上が投票し、75,642人がリュブリヤナをお気に入りとして選んだ。

●レンダヴァで調理された世界最大のボグラチュ、ギネスに【15日】

2021年9月4日にレンダヴァで、プレムリエの伝統料理であるボグラチュの最大盛り付けが行われたことが、ギネスブックに公式に認定された。調理チームは、1つの大釜で1,801キログラムの同料理を調理した。この料理は通常、3種類の肉、ワイン、ジャガイモでできており、6人のコックと20人のアシスタントが16時間かけて準備した。

●スロベニアのアーティストが初の宇宙展示に参加【19日】

スロベニア人アーティストのエヴァ・ペトリッチ氏は、国際宇宙ステーション(ISS)で行われる初の宇宙展示「ムーン・ギャラリー・プロジェクト」に2つのミニチュア作品を寄贈した。ペトリッチ氏を含む世界各国65名のアーティストによるミニチュア作品は、19日、バージニア州から打ち上げられたアンタレスロケットに搭載されてISSに到着。ペトリッチ氏は、プレキシガラス製の「Earthling Tattoo Seal」と、デザイナーのディミツィ氏と共同制作したクレイキューブ製の「DBE - Message from Earth」を寄贈。その他のアーティストたちによる作品としては、磁石、写真、毛髪のDNA細胞の画像、宝石で飾られた腎石など様々な芸術作品が詰め込まれた。これらの作品は、ISSでの様々な実験にも使用される予定。NASAによると、本

プロジェクトでは、将来、宇宙プラットフォームに搭載される新しいカメラで写真やビデオを撮影することも予定されているとのこと。

●大統領が3人の音楽家に勲章を授与【21日】

パホル大統領は、メゾソプラノのベルナルダ・フィンク・インツコ氏、バスバリトンのマルコ・フィンク氏、指揮者のヨジエ・トロシュト氏に国家勲章を授与した。オペラとコンサートの両方で活躍しているインツコ氏とフィンク氏は、音楽における並外れた功績とスロベニア歌曲への献身に対して、銀色功労勲章を授与された。リュブリヤナ大聖堂の音楽主任を長年務め、いくつかの聖歌隊の指揮者も勤める作曲家のトロシュト氏は、功労勲章を授与された。

●8つのレストランがGault & Millauの最高評価を獲得【25日】

フランスの有名なレストランガイドGault & Millau(ゴ・エ・ミヨ)は、オンラインイベントで、最高評価のレストランとスロベニア2022の特別賞の受賞者を発表した。ラシュコ・タボル城のパヴス・レストランのマルコ・パヴチニック氏がシェフ・オブ・ザ・イヤーに、8つのレストランが最高評価の4トクを獲得した。コバリドのHiša Frankoは最高得点を獲得した。レストランの全ラインナップは、3月後半に発表される予定。

●希少疾病の検診を強化【28日】

世界希少・難治性疾患の日にあたり、保健省は先天性希少疾患の国家スクリーニング・プログラムを拡大し、さらに4つの疾患を対象とすることを発表した。同省はこのために200万ユーロを確保すると、ポクルカル保健相は述べた。同プログラムでは、2018年に設定された20疾患から40疾患の検診が実施されることになる。この動きにより、スロベニアでは脊髄性筋萎縮症、重度の先天性免疫不全症、囊胞性線維症、先天性副腎過形成症の新生児スクリーニング・プログラムを導入することを意味する。これらの疾患を持つ子どものほぼ3分の1が5歳になる前に亡くなっている。スロベニアでは、約12万人が少なくとも1つの希少疾患を抱えており、早期発見と単一の電子健康記録システムが治療の成功の鍵となる。

【スポーツ】

●スキージャンプ選手ら、スポーツ界の最高賞を受賞【11日】

スロベニアの女子スキージャンプチーム、男子バスケットボールチーム、クロスカントリースキーのアナマリア・ランピッチ選手、元パラアスリートでスポーツ関係者のペテル・オズメク氏が、スポーツにおける現役および生涯の功績に対する国際最高賞、2021 Blo udek Prizesを受賞した。第57回授賞式で、プロウ

デック賞委員会委員長は、「困難な時代には、良い例と感動的な行動がいつも以上に重要」と述べた。

●**ドンチッチ、第1クオーターで28点、キャリアハイの51点を叩き出す【11日】**

NBAダラス・マーベリックス所属のスロベニア人スター選手、ルカ・ドンチッチ(22歳)は2日夜、ロサンゼ

ルス・クリッパーズに勝ち、自己最多の51得点を挙げた。第1クオーターだけで今季のNBAの記録となる28得点を記録した。彼は、9リバウンドと6アシストも記録し、第1クオーターで7本のスリーポイントを打って28得点とし、今シーズンの最高記録を更新した。

スロベニア日本国大使館

電話:+386-1-200-8281 又は 8282、Fax:+386-1-251-1822、Email:info@s2.mofa.go.jp

Web:http://www.si.emb-japan.go.jp/website_jp/index_j.html

●本資料は、スロベニアに関心のある方であれば誰でも受け取ることができます。新たに配信を希望される方、あるいは今後配信を希望されない方は、以下のメールアドレスにご連絡ください。

info@s2.mofa.go.jp

★在スロベニア日本国大使館のフェイスブックもご覧ください！

スロベニアにおける日本の外交活動、文化行事のお知らせ等の情報を随時発信しております。

<https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia>

★スロベニア人向けニュースレター「Living in Japan」のご紹介

当館では、毎月スロベニア人向けに日本紹介のニュースレター「Living in Japan (Življenje na Japonskem)」をスロベニア語で発信しています。今年は各都道府県に焦点を当てて、各地の歴史・産業・観光・物産品等を紹介してまいります。このニュースレターは当館のホームページでも公開しておりますので、どうぞご覧下さい。

https://www.si.emb-japan.go.jp/itpr_si/Zivljenje_na_Japonskem.html

【領事班からのお知らせ】

●スロベニアに90日以上滞在される方は、在留届を提出してください。また、ご提出いただいている「在留届」について、住所変更や同居家族の帰国等、記載事項に変更が生じた場合には変更届を、第3国への転出や日本への帰国際には転出・帰国届をご提出いただきますようお願いいたします。

【外務省オンライン在留届】: <http://www.ezairyu.mofa.go.jp/>

●海外に住んでいる人が、外国にいながら国政選挙に投票できる制度を「在外選挙制度」といい、これによる投票を「在外投票」といいます。在外投票ができるのは、日本国籍を持つ18歳以上の有権者で、在外選挙人名簿に登録され、在外選挙人証を持っている人です。在外選挙人証の申請から受け取りまでには通常2か月程度の期間を要しますので、早めの申請を行ってください。

●新型コロナウイルス:引き続き最新情報を入手し、感染予防に努めてください。当館HPでは、新型コロナウイルスに関するスロベニアの出入国規制などについてまとめたものを公開していますのでそちらもご覧ください。なお、規制は突然変更となる場合がありますので、最新情報についてはスロベニア当局にご確認いただくようお願いいたします。

【当館まとめページ】https://www.si.emb-japan.go.jp/itpr_ja/11_000001_00027.html

【参考情報】

1. 外務省海外安全ホームページ

本サイトでは、各国・地域での新型コロナウイルスの発生状況、新型コロナウイルス(日本からの渡航者・日本人に対する各国・地域の入国制限措置及び入国・入域後の行動制限)等の情報を掲載しています。

<https://www.anzen.mofa.go.jp/>

2. たびレジ簡易登録

本サービスは、メールアドレスとメール配信を希望する国・地域を選択するだけで、当該在外公館から領事メールを受信することが出来ます。ぜひご活用下さい。

<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/simple/register>

3. スロベニア国立公衆衛生局は、国内状況や感染予防の方法等について公開しています。

<https://www.njz.si>

(主にスロベニア語)

4. スロベニア政府が、新型コロナウイルスに関する特設サイトを開設しました。コロナウイルスに関連した保健省の特設電話番号はこちらに掲載されています。

<https://www.gov.si/en/topics/coronavirus-disease-covid-19/>

5. 新型コロナウイルス感染症に備えて ～一人ひとりができる対策を知っておこう～(首相官邸)

<https://www.kantei.go.jp/jp/headline/kansencho/coronavirus.html>

6. 新型コロナウイルス感染症に関する情報について(厚生労働省)

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html

7. リュブリヤナ空港ホームページ

<https://www.fraport-slovenija.si/en.html>

8. スロベニア政府の下記のツイッターアカウント等で、随時情報発信が行われておりますので、こちらもご確認ください。

●政府(英語) : <https://twitter.com/govslovenia>

●政府(スロベニア語) : <https://twitter.com/vladars>

(英語版と若干内容が異なります。)

●外務省 : <https://twitter.com/mzzrs>

(主にスロベニア語)

●保健省 : <https://twitter.com/minzdravje>

(主にスロベニア語)

【広報文化班からのお知らせ】

●スロベニア語字幕付 Japan Video Topics 配信中

当館 YouTube チャンネルにおいて、日本の文化や技術を紹介する Japan Video Topics のスロベニア語字幕版(英語音声)を配信しております。

[Embassy of Japan in Slovenia – YouTube](https://www.youtube.com/c/EmbassyofJapaninSlovenia)

●最新情報は、当館フェイスブックでチェック！

<https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia/>